

2014年12月19日
SB エナジー株式会社
三井物産株式会社
鳥取米子ソーラーパーク株式会社
株式会社大協組

「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」での ヤギによる除草試験結果について

ソフトバンクグループで自然エネルギー事業などを行う SB エナジー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：孫 正義、以下「SB エナジー（エスビー エナジー）」）と三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：飯島 彰己、以下「三井物産」）が設立した特別目的会社「鳥取米子ソーラーパーク株式会社」と鳥取県米子市で建設業などを行う株式会社大協組（本社：鳥取県米子市、代表取締役：小山 典久、以下「大協組」）は、「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」において、環境に配慮した活動の一環として 2014 年 10 月 17 日から 11 月 30 日まで実施したヤギによる除草試験の結果を報告します。

「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」でのヤギによる除草試験では、併設の「とっとり自然環境館」および駐車場周辺の約 900 m²を対象にヤギ 2 頭を配置し、現場植生への除草効果、除草品質および地域住民への癒し効果や環境への理解促進効果などについての調査を行いました。

■除草試験概要

調査期間：45 日間 2014 年 10 月 17 日（金）～11 月 30 日（日）

調査対象：ヤギ 2 頭 ぐう（雌 3 歳）、めい（雌 8 カ月）の親子

調査場所：「とっとり自然環境館」周辺 900 m²

除草方式：柵内放牧（木柵、防獣ネットあり）

■除草試験結果

1. 除草効果について

除草範囲：約 400 m²

除草効果：当初想定面積の約 70%を完了

特徴：採食活動には嗜好性が見られ、クローバーやヨモギなど、葉の柔らかい草を好んで食べた。一方でススキの葉のような萱や丈の高い草、セイタカアワダチソウなど太い茎は避ける傾向が見られる。また、歩行によって踏み倒された草も枯れることから、これらも除草効果として認められた。

10月20日（月）除草開始直後



11月30日（日）除草試験終了時



高い草や太い茎が一部残存することを確認。



ヤギの歩行によって踏み倒された草も効果がある。

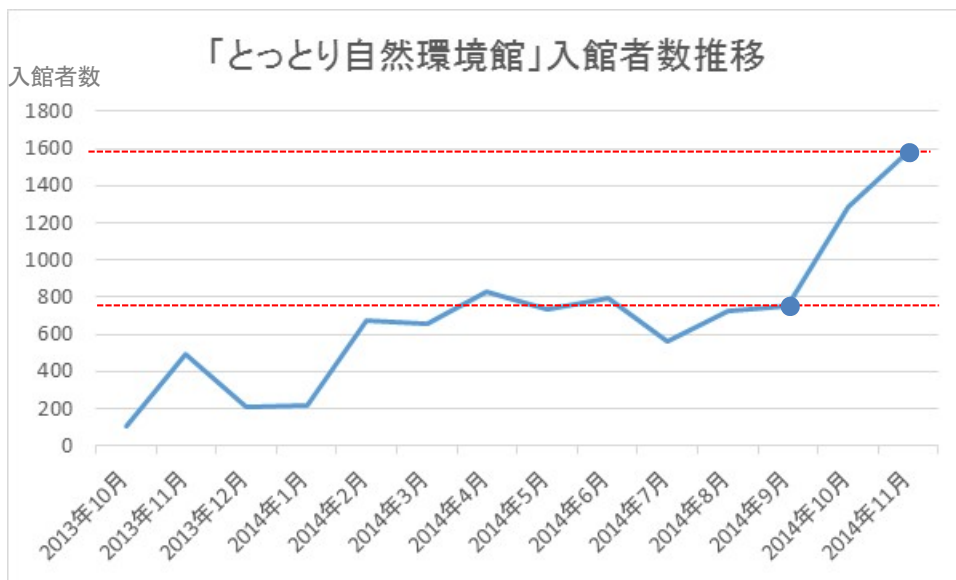


約 400 m²の範囲で除草効果が認められた。

2. ヤギ除草によるセラピー効果・集客効果について

セラピー効果：「とっとり自然環境館」を訪れたお客さまから「昔は家にヤギがいて、乳を飲んで育った」と懐かしむ声や、周辺に生えている雑草をちぎってヤギに与えて触れ合いを楽しむ子どもたちの姿が見られた。また、「とっとり自然環境館」のスタッフも「ヤギに挨拶するのが日課になり、事務所の雰囲気も明るくなった」との意見があり、一定のセラピー効果があることが認められた。

集客効果:ヤギによる除草が始まった10月以降、「とっとり自然環境館」訪問者数が約2倍に増加し、高い集客が見られた。一日あたりの集客を10月1日から16日までと10月17日から11月30日までを比較すると約4割増えている。季節要因もあり、来訪者の目的を厳密に特定することはできないが、スタッフのコメントにあるように、ヤギが集客や来訪に対する満足度の向上に対して効果を果たしていることがわかる。



訪問者および「とっとり自然環境館」スタッフの話:

- ・ヤギがいると聞いて、広島県からやってきました。
- ・生きている動物はかわいいですね。
- ・テレビで知って観に来ました。
- ・昔は家にヤギがいて、乳を飲んで育ちました。
- ・とても癒されました。



3. 全体を通して

今回のヤギの導入試験により、実施関係者が実施前に持っていた、来館者との間で起こりうるヤギによる危害、悪臭、騒音などのトラブルや、怪我や病気などのヤギの健康管理に関する不安などについて、極端に神経質にならなくてもよいことが確認された。また、試験期間中に来館された見学者の方々には、除草作業には「除草」「運搬」「廃棄物としての焼却処理」の工程があり、この流れの中でCO2排出という環境

負荷が生じていること、比較してヤギによる除草が廃棄物を出さず環境負荷の低い取り組みであることについて、見学を通じてあらためて気づかれ、興味を持っていただけた。

4. 結論

今回は導入時期が10月であったため、セイタカアワダチソウやススキの茎が大きく育っていた中での実験となった。このことが、ヤギが食べる植物の選定に大きな影響を与えていたと考えられる。ヤギの導入自体に大きなトラブルがなく、また来訪者からも好感をもって迎えられたことを踏まえ、来年は草の伸び始めるタイミングで再開し調査を継続する。

SB エナジー、三井物産、鳥取米子ソーラーパークおよび大協組は、今後も環境保全活動を推進します。

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに掲載されている会社名および製品・サービス名は各社の登録商標または商標です。